

217

演題名：精度向上を図るための手順改善

演者：大角 綾

共同演者：藤田 宜子 小林 友香 梅田 健太 島田 一彦

所属：(株)兵庫県臨床検査研究所 検査部

本文：【はじめに】タクロリムスのコントロールデータが測定者の手技によって値にばらつきが見られた為、考えられる原因について検討を行った。

【方法および結果】測定機器・試薬：ARCHITECT SR タクロリムス・アボット（アボットジャパン(株)）コントロール試料：マルチコントロールトランスプラント（TECHNOPATH社）職員3名で①～③の測定条件に従って検査を行い、測定値を比較。
①通常業務で行っている手技でコントロールと患者検体3名分を測定。（単位：ng/mL）

	CTL	検体①	検体②	検体③
職員A	21.7	14.4	5.8	3.0
職員B	23.4	13.7	5.6	3.0
職員C	19.3	14.1	5.0	2.8

②前処理の混和時間を一定時間に統一（10秒～60秒）してコントロールを測定。（単位：ng/mL）

	10 秒	15 秒	20 秒	30 秒	40 秒	60 秒
職員A	17.6	17.6	17.7	18.2	17.1	17.8
職員B	17.0	18.2	18.6	18.3	17.7	18.1
職員C	17.7	18.4	18.0	17.4	17.9	18.8

③終始手技を統一して測定。（単位：ng/mL）

	CTL
職員A	18.6
職員B	18.3
職員C	17.7

【考察】結果①ではコントロールの測定値が管理範囲内であったが個人差は最大 4.3 となった。測定手技が統一されていなかった事が原因と考えられる。結果②より、混和時間に差をつけたが、個人差は 1.0 以内であった。結果③より、手技を統一し測定すると個人差は 0.9 と小さくなった。以上の結果からコントロールを分注する前の混和方法の違いにより混和が不十分なまま分注されていた為、個人差が大きくなったと考える。

【まとめ】タクロリムスの検査はマニュアルによる前処理が必要となっている。当社では、メーカー指定による手順で各自処理を行っていたが、今回の検討によって測定値に詳細な手技の差が影響している事が明らかになった。メーカーの指定する手技に加え、詳細な手順についても統一を図ることにより、より精度向上につながる事ができた。

連絡先 079-267-1251